

「サル化」する人間社会

長光寺 福島伸悦

昨今、人間として考えられないような少年犯罪や事件が、後を絶ちません。何か変な社会になっているのではないかと思うのは私だけでしょうか。

ゴリラ研究の第一人者である山際寿一^{やまぎわじゅいち}京都大学総長は、現代の人間社会がサルの社会に戻りつつあると警鐘を鳴らしておられます。

ゴリラは、家族を大切にし、相手が何をしたいのか、自分が何を望まれているのかを読み取ることが出来るそうです。そして、群れの中で序列を作らず、たとえケンカが起きても決着をつけることはせず、最後は必ず見つめ合って和解するのだそうです。一方、サルは、自分の利益を最大化するために「強い」「弱い」という上下関係を作り、強いものを頂点に集団を作っています。大変興味深い話ですが、ボスザルが食事をするときには、弱いものは絶対に食物^{たべもの}に手を出さず、ボスの食事が終わるのをじっと待っているそうです。ゴリラはというと、みんなで分け合って一緒に食べるのだそうです。

日本は今、核家族化が進み、ライフスタイルも変化してきています。特に、家族そろって食卓を囲むという風景が、色々な事情があるのかもしれませんが、少なくなってきたような気がします。個人を優先するあまり、大事な物を忘れてしまっているのではないのでしょうか。自分の欲求を満足させるだけの人生であれば、なんらサルと違いありません。今日本は、自国の豊かさや利益を優先し、力の優劣で上下が決まる格差社会に突き進んでいるように見えてなりません。

ゴリラの社会にもみられるように、いま一度、人間が進化してきた過程の中で身につけてきた、自制心、いたわり、優しさ、というものを思い出してみる必要があるのではないのでしょうか。